

市民アンケート調査結果報告書

令和 8 年 1 月 13 日

1. アンケート調査の実施概要

1-1 調査目的

高松市の山や、海、川、ため池、里地などの自然について、市民が日ごろ感じていることの聞き取りを実施し、高松市生物多様性地域戦略へ反映する。

1-2 調査内容

- ・生物多様性への意識
- ・高松市の自然環境について など

1-3 調査対象者

住民基本台帳をもとに無作為に抽出した 18 歳以上の市民 1,000 人

1-4 調査期間

令和 7 年 10 月 8 日(水)～令和 7 年 10 月 31 日(金)

1-5 調査方法

対象者に、調査票と返信用封筒を同封して郵送し、郵送若しくはインターネットによる回答

1-6 調査項目

アンケート項目	設問の内容
問 1～問 4 属性	年齢、居住エリア等
問 5	生物多様性の認知度
問 6～問 7	自然や環境活動への興味・関心
問 8～問 13	高松市や身の回りの自然について
問 14	日頃の環境保全への意識
問 15	自由記述

1-7 回収結果

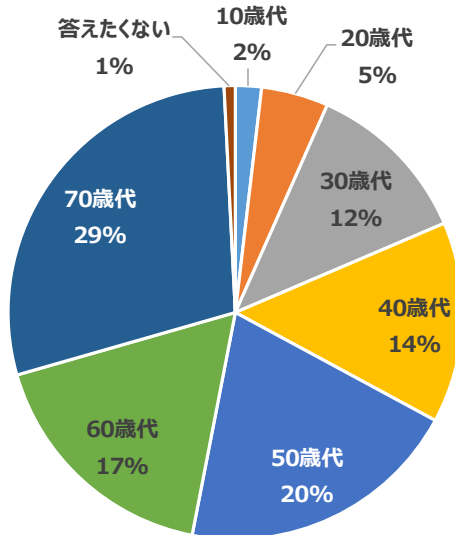
- ・発送数 1,000 件
- ・回収数 377 件
- ・回収率 37.7%

2. 調査の結果

2-1 属性

年齢

回答者の年代別割合は、「70歳代以上」が29%と最も多く、次いで「50歳代」が20%、「60歳代」が17%でした。

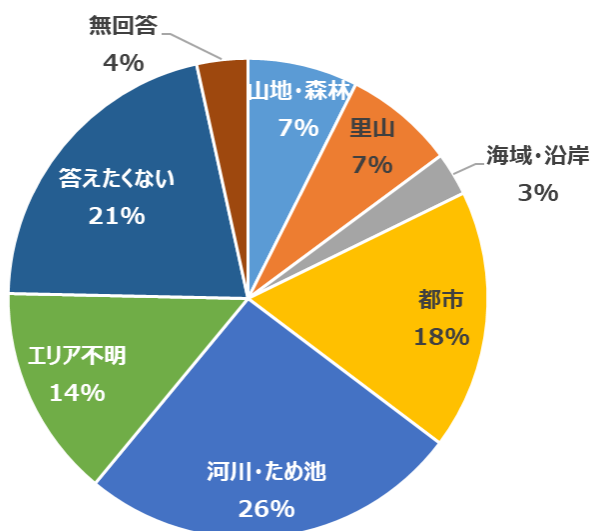


10歳代	7人
20歳代	18人
30歳代	45人
40歳代	54人
50歳代	76人
60歳代	66人
70歳代	108人
答えたくない	3人
合計	377人

居住エリア

居住エリアの割合は、「河川・ため池」が26%と最も多く、次いで「都市」が18%でした。

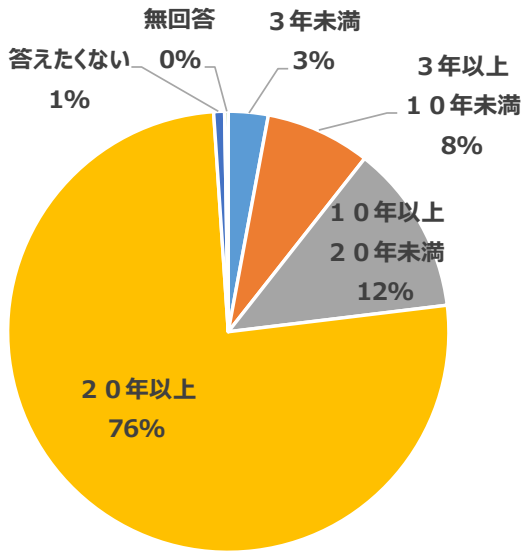
※エリア不明：居住町が複数のエリアに属していたもの。



山地・森林	28人
里山	28人
海域・沿岸	11人
都市	66人
河川・ため池	97人
エリア不明	54人
答えたくない	80人
無回答	13人
合計	377人

高松市での居住年数（合併前の旧町における居住年数含む）

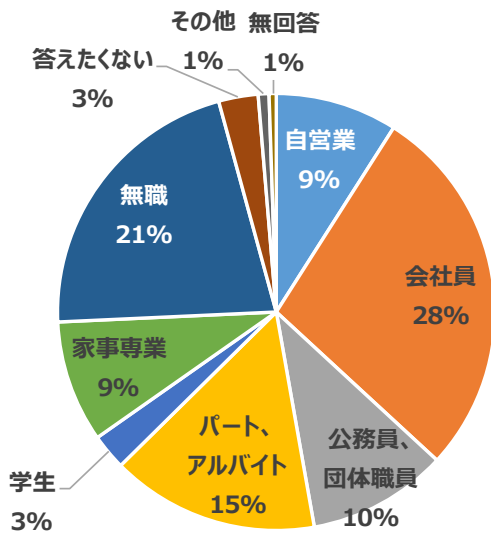
回答者の高松市での居住年数の割合は「20年以上」が76%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が12%でした。



3年未満	11人
3年以上 10年未満	29人
10年以上 20年未満	47人
20年以上	286人
答えたくない	3人
無回答	1人
合計	377人

職業（主たる職業を回答）

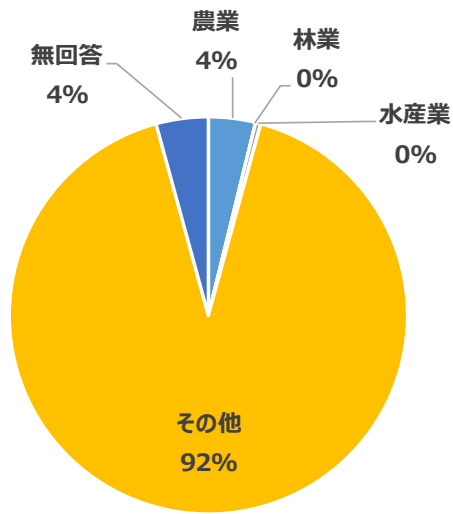
回答者の職業は、「会社員」が28%と最も多く、次いで「無職」が21%、「パート・アルバイト」が15%でした。



自営業	34人
会社員	105人
公務員、 団体職員	39人
パート、 アルバイト	58人
学生	10人
家事専業	34人
無職	81人
答えたくない	11人
その他	3人
無回答	2人
合計	377人

主たる職種

「自営業、会社員、公務員・団体職員、パート・アルバイト」と回答した 236 人の職種のうち、農林水産業は 4%で、92%という回答者の多くがその他の職種でした。一次産業の従事者の割合が低い結果となっています。

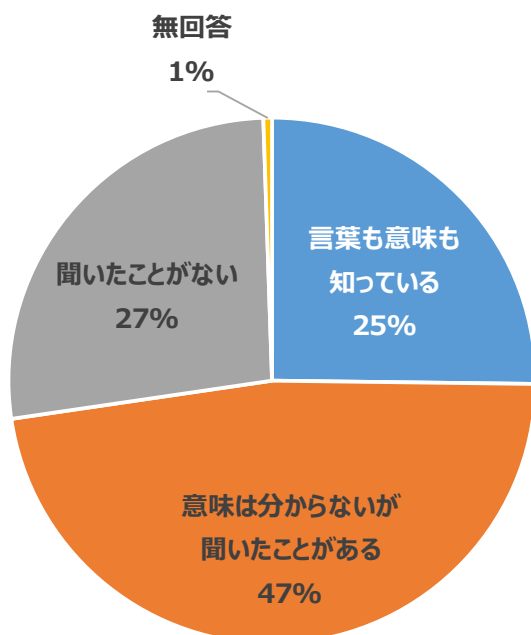


農業	9人
林業	0人
水産業	1人
その他	216人
無回答	10人
合計	236人

2-2 生物多様性に関する意識調査結果

問5 生物多様性という言葉を知っていますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

「言葉も意味も知っている」と生物多様性に対する認知度は全体の25%でした。また、「意味は分からないが聞いたことがある」との回答は47%で、言葉の認知度は72%でした。



<全国の認知度との比較>

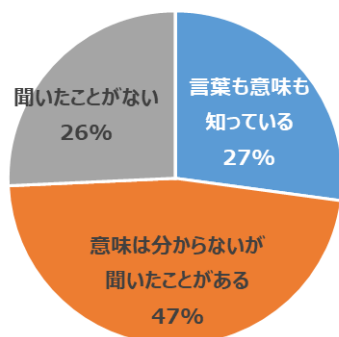
	高松市	全国
言葉も意味も知っている	25.2%	29.4%
意味は分からないが、聞いたことがある	47.5%	43.2%
聞いたことがない	26.8%	26.5%

出典：内閣府世論調査「生物多様性に関する認知度・関心について」（R4.7）

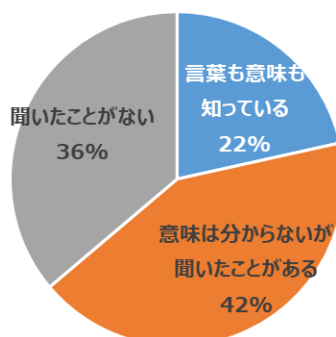
○世代別の認知度

世代別（「～30歳代」、「40歳代、50歳代」、「60歳代～」）に結果を分析すると、どの世代も概ね同様の傾向が見られましたが、40歳代、50歳代で「聞いたことがない」との回答が36%と他の世代に比べて多く見られ、また、60歳代以上において「意味は分からないが聞いたことがある」との回答が52%と他の世代に比べて多く見られました。

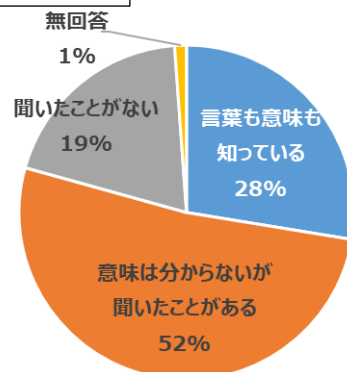
～30歳代



40歳代、50歳代

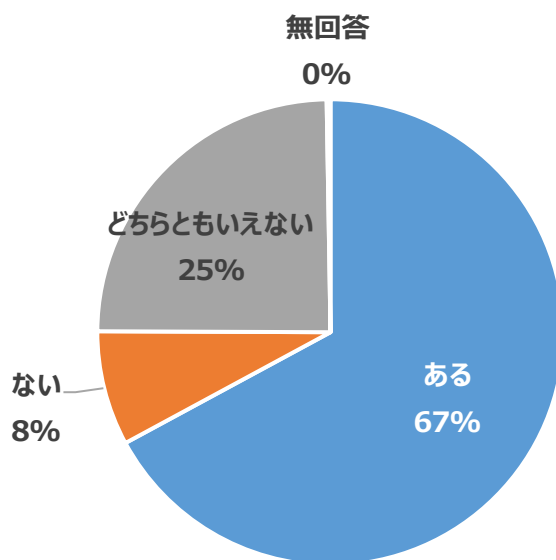


60歳代～



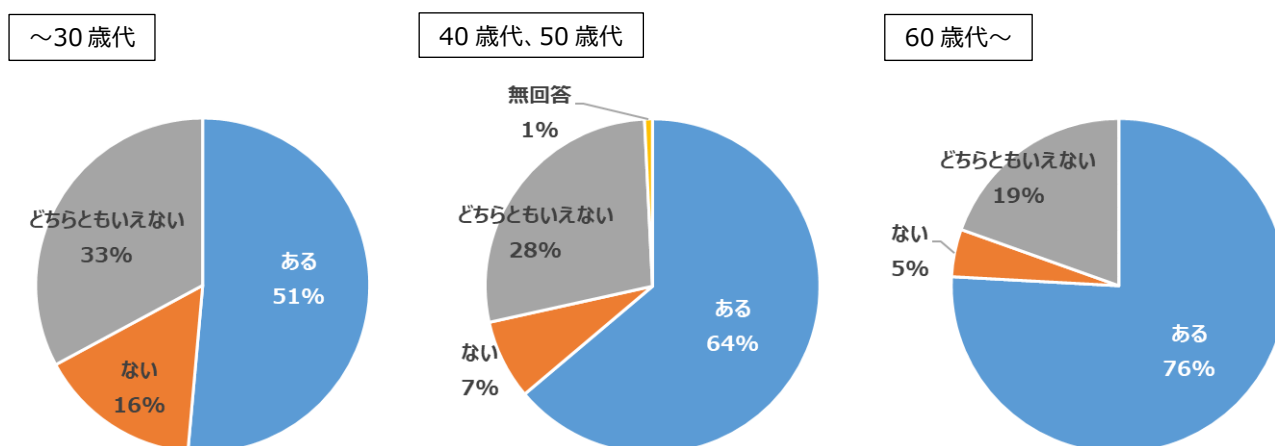
問 6 自然に関心はありますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。なお、このアンケートでの自然とは、原生林や海などのありのままの状態の自然だけではなく、二次的自然（水田、ため池、雑木林、草地、人工林などの人が手を加えることで管理・維持されてきた自然）も対象とします。

自然に関心が「ある」との回答が 67%、次いで「どちらともいえない」が 25%、「ない」が 8%でした。



○世代別の関心

世代別（「～30 歳代」、「40 歳代、50 歳代」、「60 歳代～」）に結果を分析すると、若い世代ほど自然への関心がなく（～30 歳代で 16%、60 歳代～で 5%）、世代が上がるほど「自然に関心がある」との回答が多く見られました（60 歳代～で 76%、～30 歳代で 51%）。



問 6-1 「ある」と答えた方に質問します。高松市の中で好きな自然はありますか。あれば好きな場所などを教えてください。(複数回答可)

自然に関心が「ある」と回答した 253 人のうち、188 人が高松市内で好きな自然があると回答しました。

ある	特にない	無回答	合計
188	45	20	253

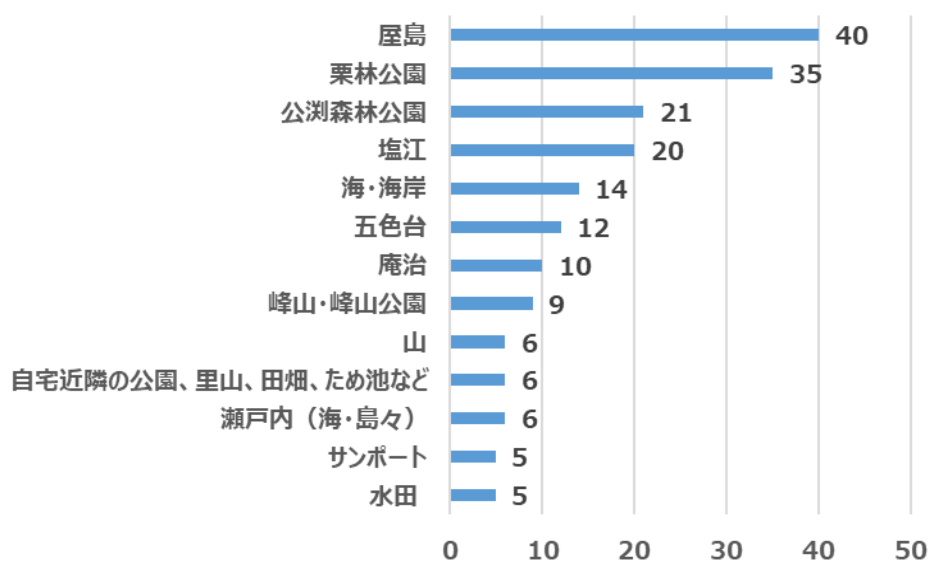
(人)

【好きな場所】

好きな場所として「屋島」に言及した回答は全部で 40 件と最多で、特に屋島の山についてや、塩田跡地についての記載もありました。「屋島」が好きな理由は、季節ごとの自然の豊かさや、海と山の両方の自然の良さ、景色の良さに加え、遊歩道等が整備されている事もあげられました。

次いで「栗林公園」との回答が 35 件で、好きな理由として、季節ごとの自然の豊かさや、手入れの行き届いた公園であること、四季折々の植物や松がきれいなこと等があげられました。

その他、公洲森林公園 (21 件)、塩江 (20 件)、五色台 (12 件) 等が多く上げられたほか、特定の場所ではなく身近な海岸、河川、山、公園、里山、水田等の回答もありました。



その他の回答 (回答者数 4 件以下)

4 件・・・女木島

3 件・・・公園、香東川・香東川河川敷、堂山、まんのう公園※市外

2 件・・・さぬき空港公園、ドングリランド、玉藻公園、三郎池 (三谷町)、
鹿の井出水・桜並木、男木島、津田の松原※市外

1 件・・・鬼無町、五剣山、高松港、紫雲山、森 (東植田～菅沢町)、川扇町公園、木太中央公園、
大滝山、中央卸売市場付近、中央公園、長池、島々、東部運動公園、麦畑、房前公園、
県道 147 号線 (志度から三木町) ※市外、みろく自然公園※市外、三霞洞溪谷※市外

問 7 現在されている活動や参加されているイベント等があれば教えてください。当てはまるものすべてに○をつけてください。(複数回答可)

「環境学習講座へ参加」、「環境保全活動団体等で活動」がそれぞれ 2 人、4 人。「特にない」との回答が 355 人でした。また、その他の活動、イベントについてごみ拾いや福祉ボランティア、山登りなどがあげられました。

環境学習講座へ参加している (生きもの観察会など)	環境保全活動団体等で 活動している	特にない	その他	無回答
2	4	355	8	9

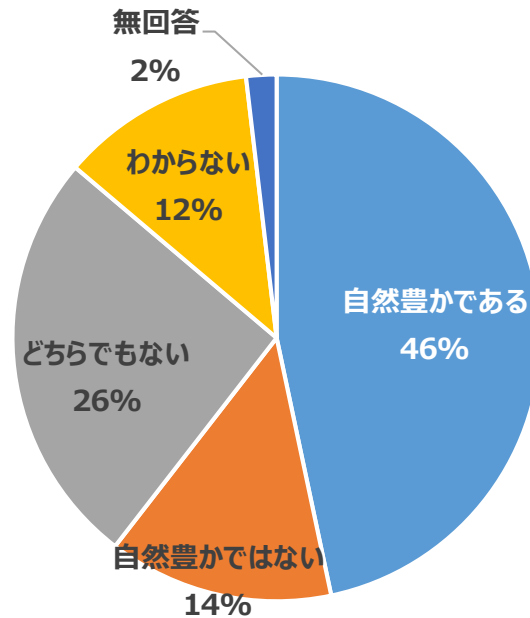
 (人)

<その他>

- 海ごみ清掃、マイボトル活動、市街地ごみ拾いなどに参加、協力
- 山野草愛好会に所属している
- ゴミ片付等のイベントに参加
- 山登りの会に参加している
- 福祉へのボランティア
- 男木で昆虫採集、磯遊びなど
- 手話教室
- カラオケ同好会

問 8 現在の高松市の自然（二次的自然を含む）についてどう思いますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

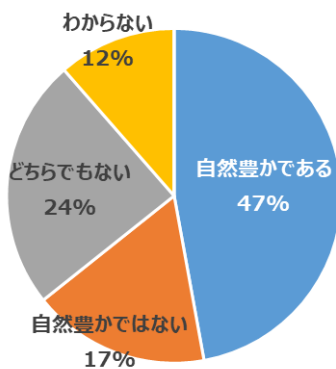
「自然豊かである」との回答が 46%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 26%、「自然豊かではない」が 14% でした。



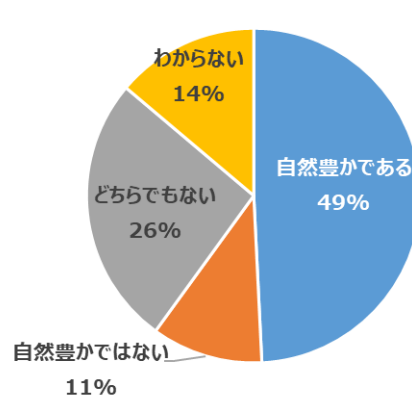
○世代別の回答

世代別（「～30 歳代」、「40 歳代、50 歳代」、「60 歳代～」）に結果を分析すると、世代が上がるほど「自然が豊かである」との回答が少なくなっていました（60 歳代～で 44%、～30 歳代で 47%）。

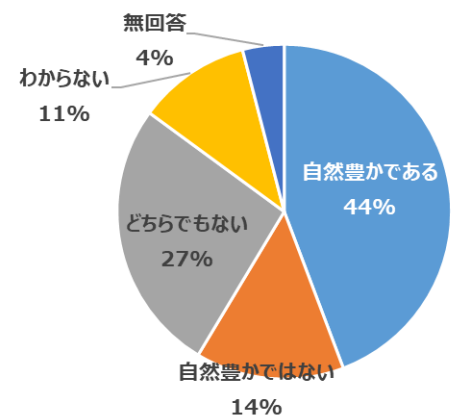
～30 歳代



40 歳代、50 歳代

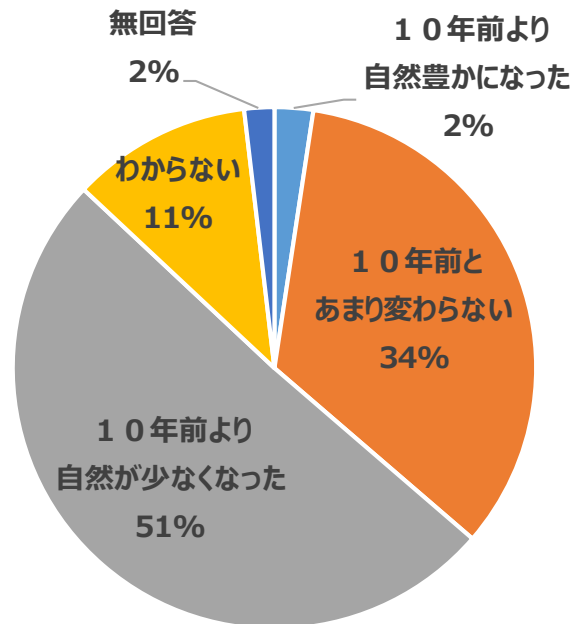


60 歳代～



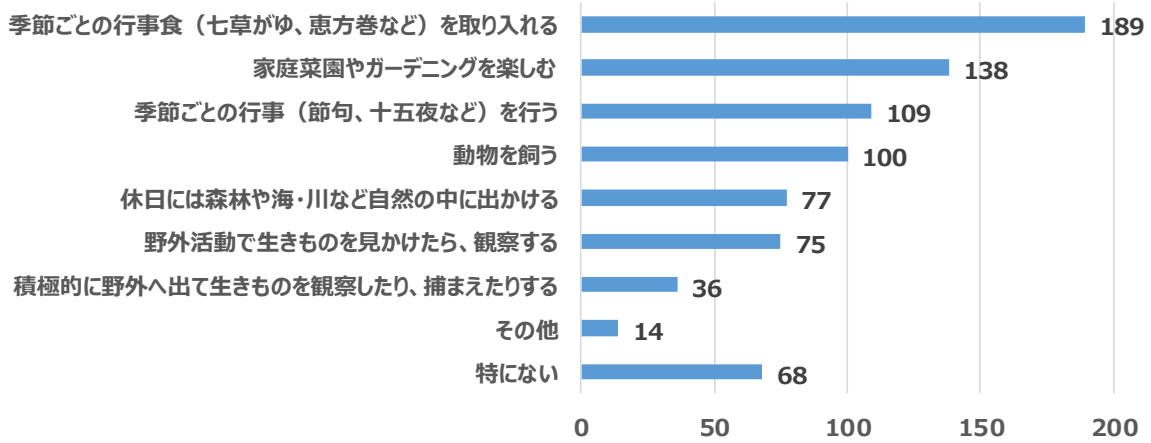
問 9 10年前と比べて高松市の自然についてどう思いますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

「10年前より自然が少なくなった」との回答が51%と最も多く、次いで「10年前とあまり変わらない」が34%でした。一方で「10年前より自然豊かになった」との回答も2%ありました。



問 10 日々の暮らしのなかで、自然や生きものと触れ合ったり、季節を感じたりすることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

「季節ごとの行事食を取り入れる」との回答が 182 人と最も多く、次いで「家庭菜園やガーデニングを楽しむ」が 138 人でした。その他の回答として、ウォーキングやサイクリング、釣り、農作業などがあげられました。



（その他）※一部抜粋・編集

春は桜、夏は海、秋は山、冬は温泉で楽しんでいる

ミカンの葉についてアゲハチョウの幼虫を育てて成虫にしている

ウォーキングの時、川の中をのぞいたりしている

農作業

ネコの保護活動

釣りを通じて魚と自然を感じている

サイクリング

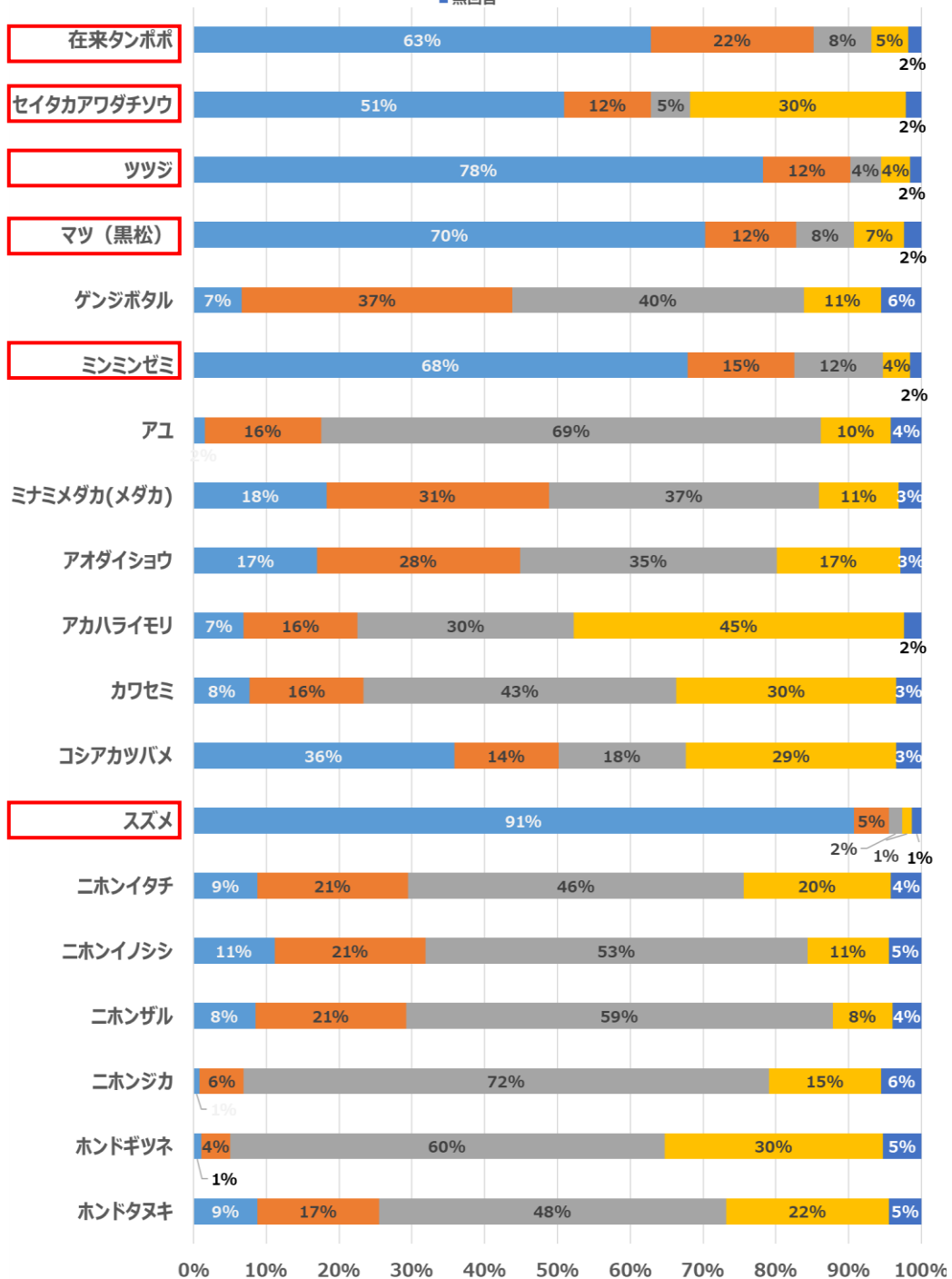
問 11 高松市にはさまざまな動植物が生息・生育しています。高松市内において次の身近な生きものについて当てはまるものそれぞれ一つに○をつけてください。

特に、高松市の花・木であるツツジやマツ（黒松）、その他、在来タンポポ、セイタカアワダチソウ、ミンミンゼミ、スズメが「この1年間に直接見たり鳴き声を聞いたりしたことがある」に対して50%を以上の回答がありました。

また、「この1年以内には高松市内の自然の中で見ていないが、過去に見たことがある」の回答が「この1年間に直接見たり鳴き声を聞いたりしたことがある」よりも多いものは、ゲンジボタル、アユ、ミナメダカ、アオダイショウ、アカハライモリ、カワセミ、ニホンイタチ、ニホニンシシ、ニホンザル、ニホンジカ、ホンドギツネ、ホンドタヌキと複数種あり、自然環境の減少の可能性もうかがえました。

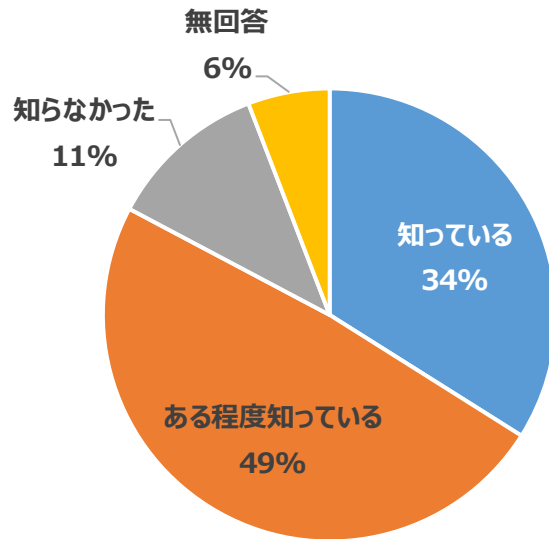
「この1年間に直接見たり鳴き声を聞いたりしたことがある」との回答が50%を超

- この1年間に高松市内の自然の中で直接見たり、鳴き声を聞いたりしたことがある
- この1年以内には高松市内の自然の中で見ていないが、過去に見たことがある
- 高松市内の自然の中で見たことはないが、姿を思い浮かべることができる
- 知らない
- 無回答



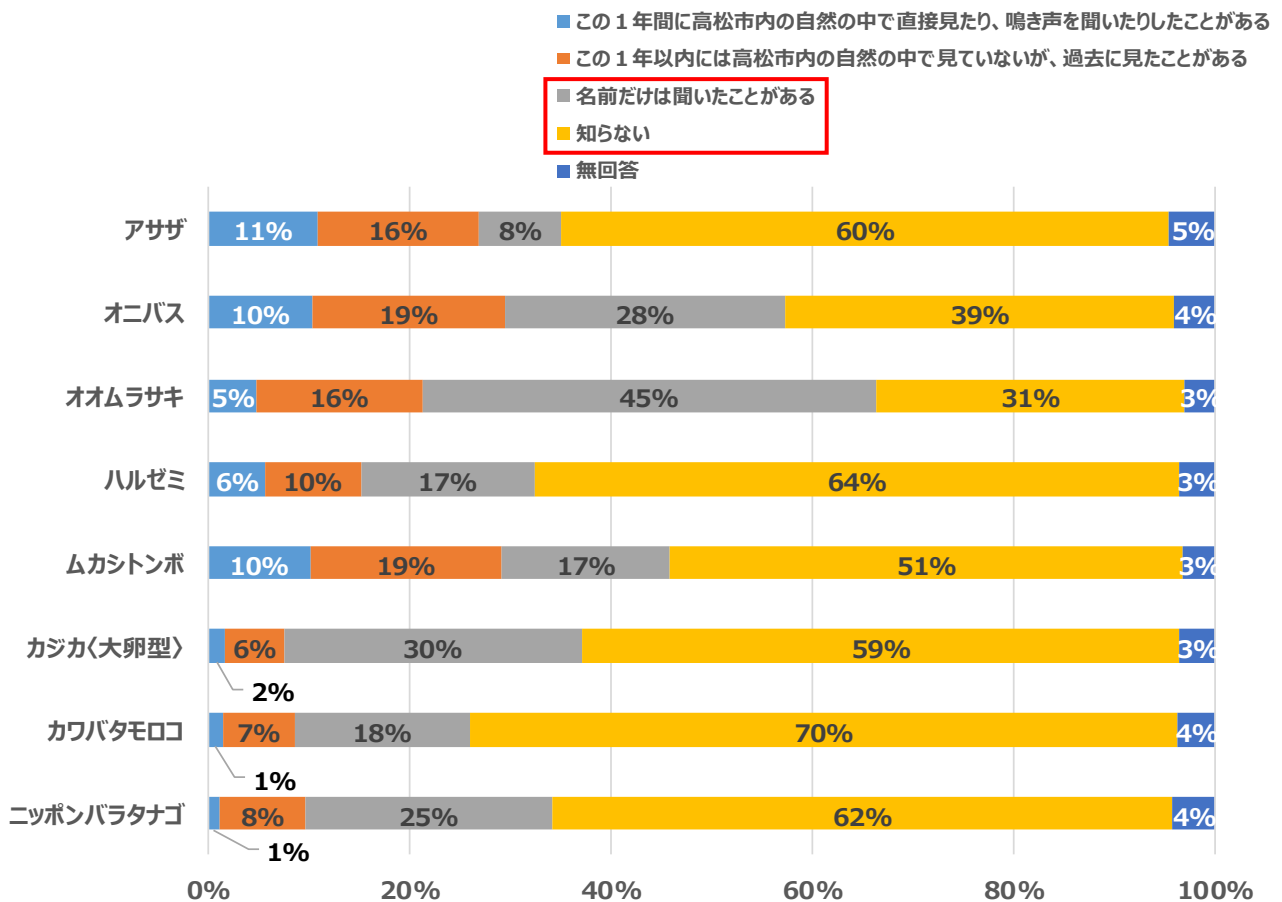
問 12 自然の減少などによって住む場所がなくなったり、観賞用などとしてたくさん採取されたり、外来生物に食べられたりするなどして、絶滅の危機にある生きものが増えています。こうした問題を知っていますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

「知っている」、「ある程度知っている」との回答が、それぞれ 34%、49%であり、合計 83%の市民が絶滅の危機にある生きものが増えていると知っているとの回答でした。



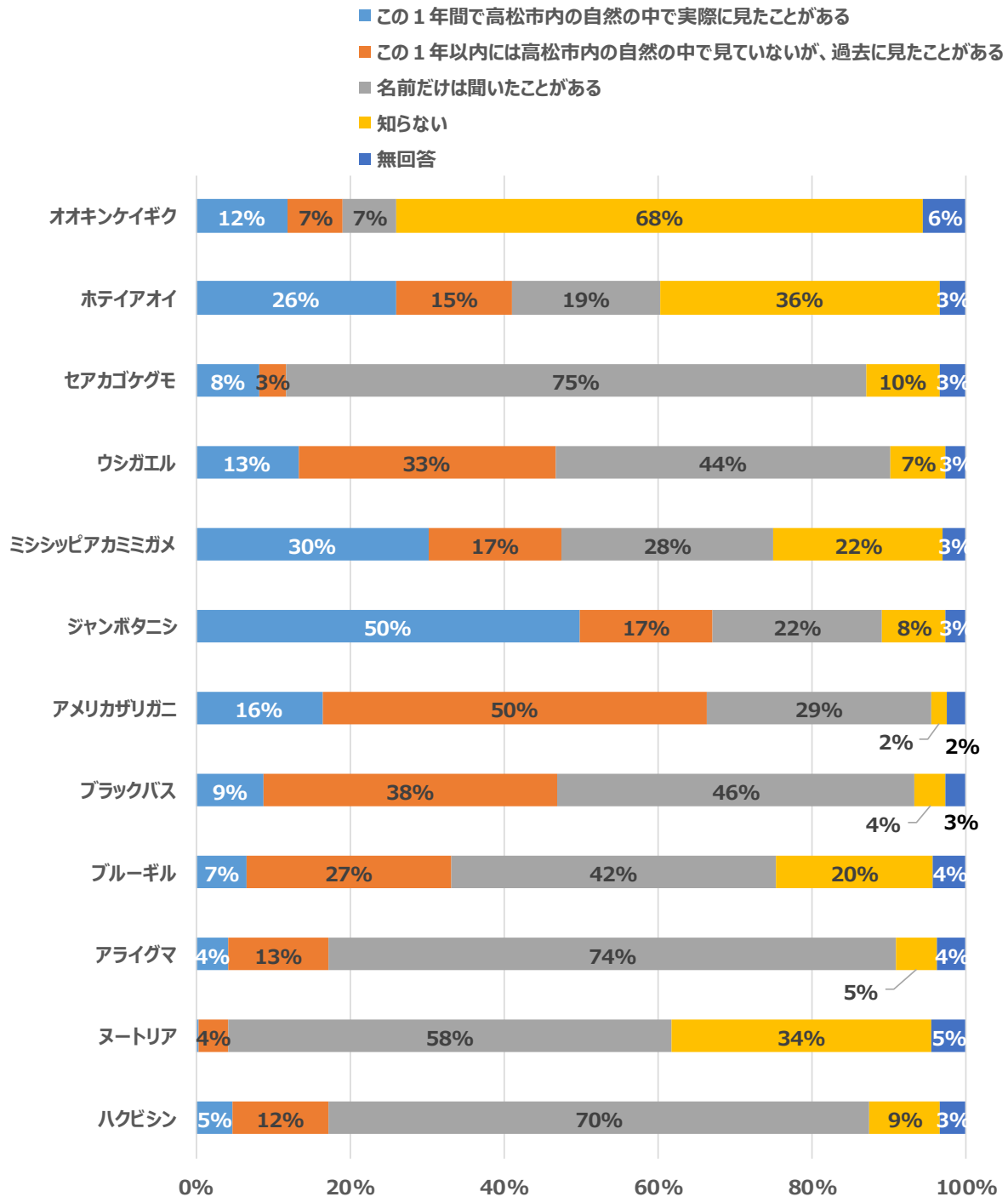
問 12-1 高松市にはさまざまな絶滅が危惧される種が生息・生育しています。次の生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。

いずれの種においても「名前だけは聞いたことがある」「知らない」との回答が多く見られました。



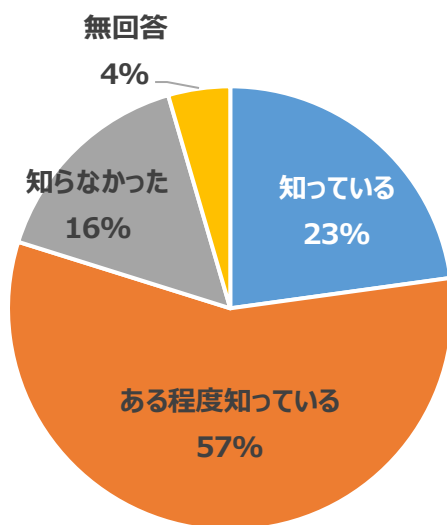
問 13 高松市にはさまざまな外来生物が生息・生育しています。次の生きものについて当てはまるものそれぞれ一つに○をつけてください。

「この1年間で高松市内の自然の中で実際に見たことがある」の回答が50%を超えた外来種はジャンボタニシだけでしたが、ミシシippアカミミガメやホテイアオイも30%、26%と回答率が高い結果となりました。また、「この1年以内には高松市内の自然の中で見ていないが、過去に見たことがある」の回答が「この1年間で高松市内の自然の中で実際に見たことがある」を上回った種は、ウシガエル、アメリカザリガニ、ブラックバス、ブルーギル、アライグマ、ヌートリア、ハクビシンがあげられ、規制強化や防除計画の成功の可能性もうかがえます。



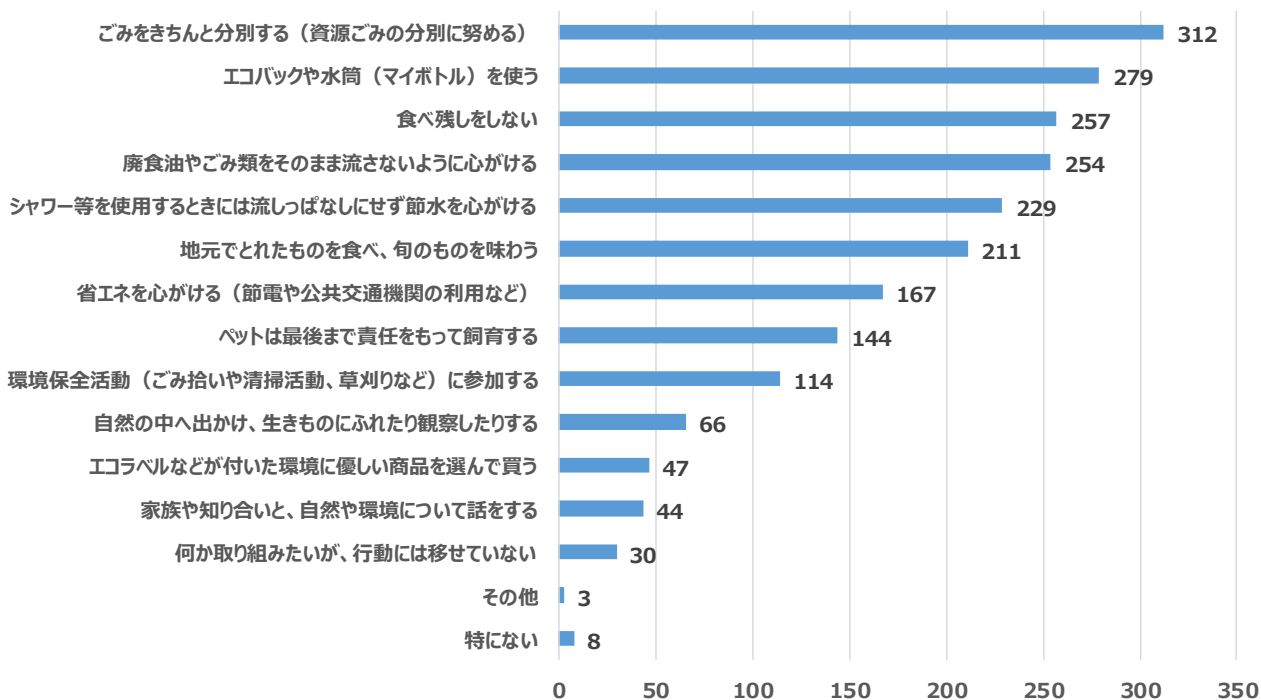
問 13-1 上記のような外来生物が引き起こす問題を知っていますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

「知っている」、「ある程度知っている」との回答が、それぞれ 23%、57%であり、合計 80%の市民が外来生物の引き起こす問題と知っているとの回答でした。



問 14 自然・環境を守るために日常から心がけていることはありますか？当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

「ごみをきちんと分別する」との回答が 312 件と最も多く、次いで「エコバックや水筒を使う」が 279 件、「食べ残しをしない」が 257 件でした。その他の回答として、ごみ拾い等があげられました。



（その他）※一部抜粋、編集

気持ちが最優先して、もっと行動しようと思う。

釣りが好きで、ゴミ拾い等やっている。ペットボトルの多さにびっくりしている。

問 15 高松市の自然や生きものに関してどのようなことでもかまいませんので自由にご記入ください。

(自由記述) (一部抜粋、編集、ポジティブな意見色付け)

自然や生きものに関して、また、その他さまざまな記述がみられました。

【自然環境】

- ・川・山・海が揃っている県は希少だと思う。これからも豊かな環境であってほしい。
- ・高松市は自然豊かでレジャーに向いており、子どもにとっても自然に触れ合える環境が整っている。
- ・他県から転入したが、自然豊かで虫も沢山みることができる環境になった。特にトンボの種類が豊富。
- ・高松は海も山も市街地に近く、とても身近に自然に触れられる。穏やかでこんな素晴らしい街はなかなかないと思う。
この場所に住める幸せを身に沁みて感じている。穏やかな音楽が似合う街。
- ・田畑が住宅地、駐車場に変わった。住宅、車、団地、公共施設、が増えた。空き家が増えた。
- ・自分が子供の頃より自然が減り、虫取りなどができる場所が少なくなった。
- ・川が汚れた。河川の水質がよくなり生物が減少している。
- ・子供の頃の身近な雑草を含む植物を見かけなくなり、他の植物を見るようになった。
- ・海、ため池、山など自然に近いものはたくさんあるが、生物を身近に感じる事が少ない。
- ・子ども達が触れる自然や生き物も減ってきていて、経験不足にもつながると感じる。

【生きもの】

- ・様々な種類の鳥類を見られることがうれしい。雉やサギなど
- ・子供の時に慣れ親しんだ、イトトンボ、赤トンボ、シオカラトンボ、テントウムシ、でんでんむし、カマキリなど見なくなったと思う。
- ・セミが出てくる所がなく、小さな木に鈴なりについていた(今年)。住宅のブロック壁にセミが出ている、成虫のまま死んでいた。
- ・最近カメ虫が異常に多い。
- ・昔はアゲハ蝶やモンシロチョウがたくさん飛んでいたが、10年前に比べるとかなり減少している。
- ・昔、家の廻りの小川、水田などに常にいた、メタカ、どじょう、アメンボ、ゲンゴロウ、ザリガニ、フナ等は見なくなった。
- ・瀬戸内海の魚の数が減っていると思う。
- ・10~20年前は庭や道路でも見かけたヘビが減ったように感じる。
- ・イノシシの話題がよく聞かれるようになった。
- ・糸とんぼや、しじみ、かたつむりなど見かけなくなった。山の方へいかないと、昆虫など見られなくなっている。

【外来種】

- ・セイダカアワダチソウ、ホテイアオイ、ジャンボタニシなどが凄い勢いで増えていくのを見ると怖くなる。
- ・ため池にミシシippアカミミガメがどんどん増えていて残念。
- ・以前見なかった鳥を見かけるようになり、セアカゴケグモなど外来種が増えたように思う。
- ・在来生物を脅かす外来生物は駆除すべきである

【地球温暖化】

- ・温暖化のせいか、海釣りに行くが5年前は身近に見かけた魚種が居なくなったり、時期が変わったりしてきた。
- ・温暖化の影響で、夏に見ていた生物がいなくなっている。より一層自然の大切さを感じる。

【景観・ごみ】

- ・池・川の土手の草刈り、道路歩道の植樹植栽の草刈りを定期的に行くと、自然の美観が保たれ、ポイ捨ての抑止になると思う。
- ・住民皆が意識を高めて取り組んで行くべき。川にペットボトルや、ゴミ、時には袋に入ったゴミが流れてきたりする。流さないようにし、見つければ回収するよう、周知するとよい。

【教育】

- ・栗林公園や屋島などでの自然観察会や環境学習を充実させてほしい。市民が参加できる生きもの調査の仕組みを作るのはどうか。
- ・高松市の在来の生物で名前を知らない生き物があった。絶滅危惧種より外来の名前のことの方をよく知っていることが分かった。絶滅危惧種をみんな（特に若い世代）で学び、未来にも引き継いでいくべきだと思う。

【意見・要望】

施設

- ・市内には整備された公園等が少ないと思う。親子で行ける整備された自然の公園が近くにあるといいと思う。
- ・他県は、自然を感じながら利用できるウォーキングロードやランニングロードが河川敷などにあり、地域の人々が積極的に利用している。ロードの脇には植物が手入れされ、植物・昆虫・鳥・川の生き物を眺め感じながらランニング、ウォーキングを日課としている。高松市でも取り入れて頂きたい。
- ・香川県は全体的に、自然史資料を収集・収蔵し研究・教育・普及活動を行い、保全へと繋げる施設が少ない。高松市内にも香川県自然科学館があったが閉館し、市民文化センターの後継施設であるミライエは自然科学研究を行う団体を受け入れていないと聞く。
- ・環境保全、それに含まれる生態系保全が叫ばれるこの現代において、栗林公園や屋島、五色台などの多様な自然環境のある高松市が、それらを知るための基幹施設を有していないというのは大きな損失だと考える。"

整備・開発

- ・田畑の有効利用（不耕作地が多い）を市・県・国、前向きに考えて欲しい。
- ・ため池や山など自然は多いと思うが、手入れが行き届いていないところが多い。自然を壊すわけではないが接する機会、環境は整備する必要がある。
- ・県や国や高松市が放置し、鬱蒼と茂った草木が色々な生物の住処になっていると思う。道路についても、草木が覆いかぶさり道幅が狭くなってる箇所が多々ある。生き物についても、保護も大切だが、人命を脅かすものは排除していかなければならず、難しい問題だと思う。
- ・ソーラーパネルを作りすぎではないか。もう要らないと思う。
- ・農地減少に歯止めをかけてほしい。農地は自然を維持するために重要。乱開発されている。
- ・畑や農地の整備など高齢や若者の農業離れなどで荒地が増えています、自然が美しくなくなりつつあるのではないか。生きものと人間との共存も難しくなっている。

教育・催し

- ・子どもが気軽に自然とふれあえる場所やイベントをたくさん行って欲しい。
- ・知らない事が多いので勉強する。講座とか展示などを市が主動してもっと積極的に開催して欲しい。

害獣等

- ・イノシシが近所で出ると通知がくる。子供が、危ないのでどうかしてほしい。
- ・農作物の敵、カメムシ、ジャンボタニシ等、被害を少なくして欲しい。
- ・川、池に外来植物が繁殖し流れを止めたり、汚したりしている事を見聞し、駆除に力を入れて欲しいと思う。
- ・高松は特にハトが多いように思う。ペランダの柵に止まるためフン害に困る（毎日のことなので）。道路はカラスのフンで汚い。

その他

- ・本来豊かな自然環境を有すると思う。環境保全に対する市民の意識は全体的に低い気がする。行政においても計画性があるように感じられない。
- ・自然豊かな地域は大切に保全活動し、市民のいこいの場となる施策を望んでいる。
- ・自然も大切だが、あまり過度にならないでほしい。

【その他】

意欲・取組み

- ・省エネ、ゴミを減らし、分別はきちんとするなど今出来る事はしているが、他にも身近で出来ることあれば取りくみたい。
- ・農薬の使用等については控えるように努めている。
- ・この様な生物多様性地域戦略が多くの人に認知され、人と自然がより良い形で共存していけますように。何も知らない人も活動が目に見える事が多くなってほしい。自然管理の募金もしたい。
- ・知らない事が多いのに驚いた。環境に目を向けるようにしようと思った。

動物

- ・犬の殺処分が多いと聞いたことがある。売り手は売りっぱなしでなく、定期的に連絡を取るなどしてきちんと飼育出来ているか、工夫をして欲しい。
- ・飼い犬のフンの放置が多い。マナーが悪い。
- ・人間の都合で少なくなれば保護、多くなれば駆除。全て人間社会中心の勝手な思いである。

その他

- ・高松市は「自然豊かである/自然豊かではない地域」が混在しているため一概にはいえない。
- ・田んぼが少なくなって農業従事者がいなくなり、ため池等の水管理を誰がするのか疑問。
- ・中央公園のリニューアルを楽しみにしている。
- ・私の子ども世代からはだんだんと自然の中で遊ばなくなってしまった。生活能力が出来ると思うので、小さい頃から自然の中で遊ばせたい。
- ・自然に関心を持てる、心や時間の余裕が欲しい。
- ・大切な事だとはわかるが、現在のところ地域の自然や生きものについてあまり興味を持っていない。
- ・地域から産直のお店がなくなっている事が残念。
- ・マンション、コンビニ等が増え、より便利になり、周りの自然を感じない人が増えている。この様なアンケートやお知らせに目を向ける人が多くなると良い。

3. 意識調査から見える生物多様性の課題（地域戦略へ反映）

1) 「生物多様性」の認知度の向上

言葉も意味も知っているという「生物多様性」の認知度について、全国の結果よりも4ポイントほど低く、あらゆる世代を対象として生物多様性に関する環境教育の充実や、市から市民への情報提供の充実が必要と考えられます。

2) 施設やイベント等、環境学習・保全の機会

イベントへの参加についての設問（問7）で「特になし」との回答が355人もあった一方で、自由記述には「市民が参加できる生きもの調査の仕組みを」や「研究・教育・普及活動が少ない」、「多様な自然環境を知るための基幹施設を有していない」といった意見、イベントや講座等を望む声が上がっています。市民参加の機会を市として増やすことで、市民の生物多様性保全への意識向上に繋がる可能性があります。

3) 環境の整備

問8で「高松市の自然は豊かである」と回答している市民が46%を占めたり、自由記述でも高松市の自然環境についてポジティブな意見をあげる市民が居る一方で、問9で「10年前より自然が少なくなった」と回答した市民が51%を占めたり、自由記述で公園等の施設や自然環境の整備、管理に関して言及する意見が複数あるなど、生物多様性保全のためにも、市民の満足度向上のためにも環境の整備が必要であると考えられます。

また、荒廃農地の拡大や獣害等の意見も多数あがっているため、農地や有害鳥獣の適性管理を図る必要があります。

その他、太田中央公園のようなビオトープが整備された公園が増えると、次世代を担う子どもたちに幼いころより自然を身近に感じられる環境を構築できるかもしれません。